

2024年度 事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

【1】事業の成果

前年度に引き続き今年度も、一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、ナチズムとホロコーストの歴史を教材とした教育事業を小学生から中学生・高校生、大学生、一般市民を対象に広く実施した。当NPOの設立以来の事業目的に沿って、知識としての歴史学習にとどまらず、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを目指した。

主な事業である学校訪問授業は40回(前年度53回)、オンラインでの主催事業は24回(前年度16回)、計64回の実施を通して、延べ7,248名に学習の機会を届けた。昨年に引き続き、問いづくりや哲学対話を取り入れながら、対話を促し、思考を深めるアクティブラーニングを実施し、主体的な学びを促した。

ハイライトとして、下記の三つの成果を挙げる。

1. 「オーストリア海外奉仕プログラム」の派遣生トリスタン・ダハさんの受け入れ

前年度からボランティアとして迎えたオーストリア出身のトリスタン・ダハさんを中心に、学生から大人まで交流しながら、学ぶ機会をつくることができた。海外のナチズム・ホロコーストの博物館で奉仕活動をすることで兵役の代わりになるという「オーストリア海外奉仕プログラム」の派遣生として10カ月間Kokoroで活動に参加してもらった。ナチズムの犯罪への加担というオーストリアの歴史認識に基づくプログラムで、トリスタンと日本の若者の交流を通して、自国の加害の歴史をめぐる対話の場を事業の中で組み込むことができた。また、ナチズム下で強制収容所で亡くなったトリスタンの高祖父が家族に充てて書いた手紙を一編ずつドイツ語と日本語で読む「ドイツ語リーディングクラブ」はベルリン在住の中村美弥さんの協力で計10回実施した。(3-2-1から3-2-14参照)

2. 若者歴史対話 in ベルリンーBridge Stories Across Borders

Kokoroにとっては初の試みとして、日独若者歴史対話“Bridge Stories across Borders”を主催した。国籍を問わず、日独居住の若者を募集したところ、多様なルーツを持つ参加者21名がベルリンに集い、ナチズムと日本の帝国主義の歴史と記憶を探求した。ベルリンの街中の記念碑を訪ね歩き、ザクセンハウゼン強制収容所でのワークショップに参加し、性暴力の歴史と記憶に出会い、移民のルーツを持つ人々と料理をしながら交流し、5日間を共に過ごしました。プログラムの終了後も、有志のメンバーが「軍都広島」の記憶をたどるフィールドワークなどを企画し、交流を続けている。(3-2-16参照)

3. こども夢基金助成事業－絵本を活用した対話ワークショップ

高校生を対象とした「問いづくり」と「哲学対話」で構成するワークショップを3回シリーズで開催した。Kokoroでは初めての独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施した。戦争と暴力が続く世界で、ナチズムとホロコーストの歴史の教訓である、一人ひとりを尊重することの大切さを「対話」という実践を通して足元から身をもって体験してみる機会として企画した。大学生インターンのファシリテーションのもと、高校生から一般まで、合計38名の参加者を迎えた(3-2-15, 16, 19参照)。

【2】事業の実施に関する事項

1 教材の制作及び提供事業 (展示パネル等の貸出)

下記のオンライン教材を今年度もホームページで公開し、訪問授業の事前学習などに活用してもらった。(5)については、ジョージ・ブレイディ生誕97年の節目でビデオ「ぼくたちは新しい文化をつくる－テレジン収容所の秘密の雑誌 VEDEMより」を公開し、50名の視聴申込があった。

- (1)「アンネとまちよと希望のバラ」
- (2)「ヤーノシュの物語」
- (3)「若者対話：歴史を知ってどうということ？」
- (4)「世界に向かって叫べなかったことをわたしたちはここに埋める」
- (5)「子どもたちの抵抗－ぼくたちは新しい文化をつくる」

2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブックログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,501冊。

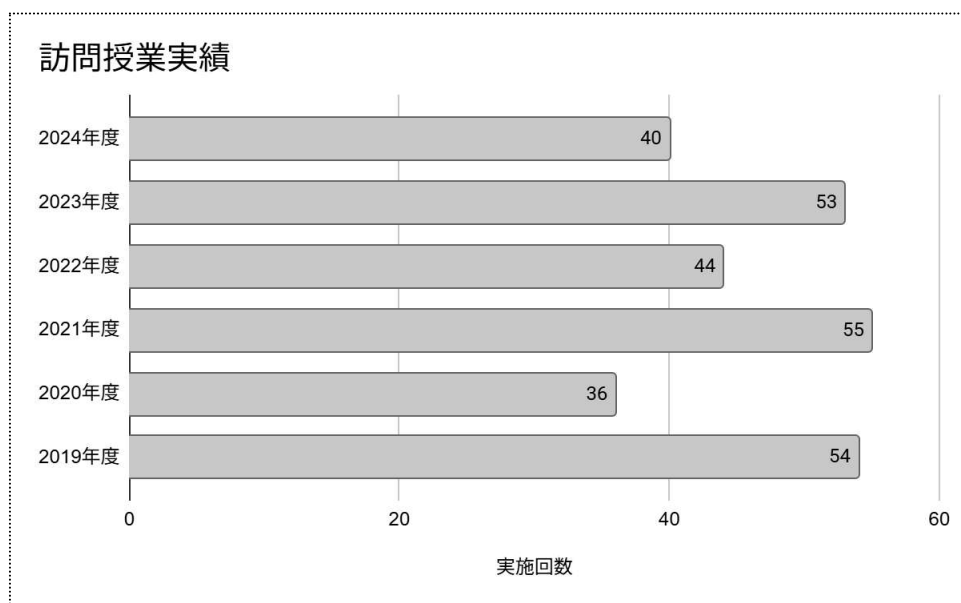
3 講演会、セミナー等の開催事業

3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計40回実施した。
([対]=対面開催、[オ]=オンライン開催)

1	2024/4/9	明海大学	大学	対	問いづくり
2	2024/5/13	品川女子学院①	高校	対	ナチズムの歴史探求－アクティブラーニング
3	2024/5/24	ブラジルの学校	小学校	オ	ハンナのかばん
4	2024/5/27	東京女学館中学校	中学校	対	ハンナのかばん
5	2024/6/4	東京横浜ドイツ学園	小学校	対	ハンナのかばん
6	2024/6/11	田端小学校6年生	小学校	対	杉原千畝
7	2024/6/11	田端小学校5年生	小学校	対	ハンナのかばん
8	2024/6/15	清瀬第三小学校6年生	小学校	対	杉原千畝と日本にやってきた難民たち
9	2024/6/15	清瀬第三小学校5年生	小学校	対	ハンナのかばん
10	2024/6/18	啓明学園初等学校	小学校	対	ハンナのかばん
11	2024/6/24	品川女子学院②	高校	対	ナチズムの歴史探求－アクティブラーニング
12	2024/7/29	湘南学園	高校	対	問いづくり
13	2024/8/6	八百津町教育委員会	高校	オ	ハンナのかばん
14	2024/10/7	文京区立音羽中学校	中学校	対	ハンナのかばん
15	2024/10/9	学習院大学	大学	対	ハンナのかばん
16	2024/10/16	田園調布雙葉小学校	小学校	対	ハンナのかばん
17	2024/11/1	晃華学園中学校	中学校	対	ハンナのかばん
18	2024/11/12	桐朋女子高校	高校	対	ハンナのかばん

19	2024/11/22	東京純心女子高校	高校	対	ハンナのかばん
20	2024/11/26	岐阜県立長良高校	高校	対	アウシュヴィッツからの問い
21	2024/12/2	東邦大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い
22	2024/12/3	開智中学校	中学校	対	アウシュヴィッツからの問い
23	2024/12/4	大和市立西鶴間小学校	小学校	対	ハンナのかばん
24	2024/12/9	横浜市立洋光台第二中学校	中学校	対	ハンナのかばん
25	2024/12/10	東京純心女子高校	高校	対	ハンナのかばん
26	2024/12/14	文京区立文林中学校	中学校	対	ハンナのかばん
27	2024/12/16	セントヨゼフ女子学園中学校3年	中学校	対	ハンナのかばん
28	2024/12/17	セントヨゼフ女子学園中学校2年	中学校	対	ナチズムの歴史探求ーアクティブラーニング
29	2025/1/15	明治学院高校	高校	対	ハンナのかばん
30	2025/1/20	鹿沼市立鹿沼北小学校	小学校	対	ハンナのかばん
31	2025/1/31	聖心女子学院中等科	中学校	対	ハンナのかばん
32	2025/2/3	光塩女子学院初等科	小学校	対	ハンナのかばん
33	2025/2/6	愛知教育大学	大学	対	ハンナのかばん
34	2025/2/7	座間市立相模野小学校	小学校	対	ハンナのかばん
35	2025/2/13	愛知教育大学	大学	対	アウシュヴィッツからの問い
36	2025/2/18	香蘭女学校	高校	対	ハンナのかばん
37	2025/2/21	綾瀬市立北の台中学校	中学校	対	ハンナのかばん
38	2025/3/11	練馬区開進第三中学校	中学校	対	ハンナのかばん
39	2025/3/17	世田谷区立梅丘中学校	中学校	対	ハンナのかばん
40	2025/3/18	鷗友学園女子中学校	中学校	対	ハンナのかばん



3-2. NPOの自主事業として開催

3-2-1 ドイツ語リーディングクラブ第1回

「強制収容所から届いた手紙を読む私の高祖父の物語」(全5回シリーズ)

開催日時	2024/4/10(水) 20:00～21:00
内容	ドイツ語で歴史の一次資料に触れる新企画としてドイツ語リーディングクラブを全5回シリーズで開催。昨秋からオーストリアより来日中のトリスタン・ダハさんの家族史をテーマに取り上げ、トリスタンさんの高祖父が強制収容所から息子に送った51通の手紙の中から、各回1通を選んで読む。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生から一般まで／合計43名

3-2-2 問いづくりワークショップ【インターン6期生企画】

わたしたちは生きのびるために ～ホロコーストを生きた障害当事者たち～

開催日時	2024/4/20(土)19:00～21:00
内容	ホロコースト下で、生き延びるために連帯を広げ、行動を続けた障害当事者がいた。どのように行動したのか。どのような思いがあったのか。Kokoroインターン6期生企画のイベントとして、ホロコーストは多くのユダヤ人の命を奪った、という歴史の中にさらに一歩踏み込んで、異なる状況に置かれていた人々の生き方にもっと深く、これまでとは違う角度から迫ることができるよう、絵本を用いたワークショップを通して対話を行った。
会場	オンライン
参加費	無料
対象／参加人数	学生～一般／合計26名
参加者アンケートより	▶とても楽しかったです！絵本を題材に、という点は驚きました。ホロコーストについて学んでいるかどうかの如何を問わず、皆が話しやすいテーマ作りとなっていて良かったです！ ▶大変スケールの大きい問いで、しかも今回の主題の柱になる問いでした。「うーん」とおもって、他の方の意見をきいて、さらに「ふむふむ」といろいろ思っていたら、自分の考えをまとめて、発言の言葉選びをするのに時間がかかってしまい、時間内に発言することが難しかったです。「人を生産性ではかる価値観を強制する社会のありようが、優生思想の源だと思います。克服するのは難しいかもしれないけれど、今回のこのようなイベント自体、そういう価値観に抗う取り組みで、本当は多くの方が生きやすいのはそういう世の中なのではないでしょうか」と言えばよかったなあ、と一晩経って、思っています。企画の中では答えが見つからなくても、こうやって後で問いの答えを考え続けることで、思考が深まっていくのかなあ、と思いました。（一部抜粋）

3-2-3 ドイツ語リーディングクラブ第2回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」(全5回シリーズ)

開催日時	2024/4/24(水)20:00～21:00
内容	3-2-1 の第2回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計38名
参加者アンケートより	▶普段耳にしないドイツ語をたくさん聞けたのが新鮮でした。（中略）手紙に出てくるたくさんの方の名前を、誰のことだろうと想像しながら、実際にその時を生きていた人々なのだということが不思議な感じでした。（中略）さらに、ご親族に収容されていた方をもつ参加者の方がおられたことで、お話が非常に深まったと思います。彼女のひいおばあさんのように、残酷なトラウマから当時の経験を語ることができない人がたくさんおられると思います。その現実を思うと、時を経た今だからこそ、今を生きる私たちだからこそできることがあるのではないかと考えました。そのうに現在の私たちが過去を回顧し未来を考えることこそが、過去をただ過ぎ去っただけの出来事ではなく歴史と呼ぶための行動のように感じました。人も、時間も、ずーっと繋がっているんだなとそんなことを考えました。（一部抜粋） ▶生活や事務的なことを綴った淡々とした手紙でしたが、たくさんの方と分かち合うことにより、自分には浮かばなかった問がたくさん生まれ、そこから知らなかったことと出会ったりする過程が楽しかったです。 トリストアンさんや参加者の方も含め、自分の家族の歴史に向き合っている方たちの話を聴くことができ、自分の近くに引き寄せて残された事実について考えてみる視点が少し持てたように思います。

3-2-4 オーストリア海外奉仕トリスタン・ダハさん招聘説明会

開催日時	2024/5/4(土)20:00～21:00、5/18(土)18:00～19:00
内容	兵役に代わる奉仕活動に就くためオーストリアから来日中のトリスタン・ダハさんをボランティアに迎えてもらうために、交流に興味のある学校を募集するために説明会を開催した。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計15名

3-2-5 ドイツ語リーディングクラブ第3回

「強制収容所から届いた手紙を読む私の高祖父の物語」(全5回シリーズ)

開催日時	2024/5/8(水)14:00～15:00、20:00～21:00
内容	3-2-1の第4回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計31人

3-2-6 ドイツ語リーディングクラブ第4回

「強制収容所から届いた手紙を読む私の高祖父の物語」(全5回シリーズ)

開催日時	2024/5/22(水)20:00～21:00
内容	3-2-1の第4回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計27人
参加者アンケートより	▶初回のリーディングクラブでは、「手紙」というものに対して過度にドラマチックなイメージを抱いていました。ただ、回を重ねたことで、手紙から感じられるのは収容所での緊迫した様子やジグムントさんの焦り、家族に言葉が届いているのか分からない不安などです。こうした事実を知ることは、歴史の中における手紙をどのように捉えるかといった議論に結びつくと思います。手紙はしばしば「感動」「勇気」「絆」といった言葉に覆われがちですが、手紙には必死の訴えや怒り、苦しみ、焦りといった切実な問題を届ける力があることを改めて考えました。(一部抜粋) ▶中村美耶さんとトリスタンさんの会話の、ドイツやオーストリアでヒトラーの演説を扱うというお話がとても興味深かったです。日本でも国語の授業で戦争を題材とした作品を扱うけれど、どれも日本の被害者の視点のものであるということに気づき、ここにも歴史の捉え方の違いが表れていると感じました。(一部抜粋)

3-2-7 ワークショップ「ヒトラーの生家をめぐるとの対話」

第22期NPO総会特別企画

開催日時	2024/5/25(土)19:00～21:15
内容	Kokoroの第22期NPO総会の特別企画としてワークショップ「ヒトラーの生家をめぐるとの対話」を開催。オーストリア北部の町ブラウナウで、1889年4月20日、アドルフ・ヒトラーは生まれ、3歳まで家族と共に過ごした家が今も建っている。建物の前には、「平和、自由、民主主義のために 二度とファシズムを繰り返すな 何百万の死者が警告する」と刻まれた石が置かれている。これはブラウナウの東方130kmほどのところにあったマウトハウゼン強制収容所の石で、ここには3,300人を超える「囚人」たちが働かされていた、死を招く危険な採石場があった。 ヒトラーの生家は、長年その保存をめぐる議論が続いてきた。そして昨年、この建物を警察署に作り変える計画が決定した。オーストリアの社会でどのような賛否両論があるのか。 昨年11月よりオーストリアからボランティアとして迎えているトリスタン・ダハさんのプレゼンテーションを通して、歴史と記憶と私たちの社会について一緒に考える。
会場	オンライン
対象／参加人数	Kokoro会員、学生～一般／合計41名

3-2-8

ドイツ語リーディングクラブ第5回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」(全5回シリーズ)

開催日時	2023/6/5(水)20:00～21:00
内容	3-2-1の第5回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計24名
参加者アンケートより	▶若い参加者がしっかりとした考えを持ち参加しているのは素晴らしいとおもった。収容されていた人が外部の情報がある程度あることができていたこと。他国への移動が可能であったこと。ホロコーストについても、授業での扱いがあること。日本では自国のことも他国のこともほぼない。今も昔も ▶ホロコーストについて、まだ研究しつくされていないというお話が印象的でした。ジグムントさんのお手紙に現れる様々な人物や場所の名前について、もしより詳しく分かればジグムントさんについてのみならずホロコースト当時を生きた他の方々についても知るきっかけになると感じました。また、翻訳の難しさについてお聞きできたことが良かったです。私は英語と日本語しか分からないのですが、二つの言語を並べてみると手紙の印象が変わります。この手紙を何語で読むかによって問いも変わってくるのではないかと思います。

3-2-9

ドイツ語リーディングクラブ

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」～エピローグ

開催日時	2024/6/26(水)20:00～21:00
内容	4月10日(3-2-1参照)から計5回開催したリーディングクラブをふりかえる最終回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計23名
参加者アンケートより	▶中村さんのお話の中で、「私の視点、世界でしか語れない」ということへの言及があったことが興味深かったです。パレスチナやイスラエルについて、あるいはユダヤ人とアラブ人について、ドイツに住む人としての視点と中村さんご自身の感覚からお話下さって大変貴重な時間でした。お話を聞きながら、私と他者が異なる世界を持っているからこそ対話しなくてはいけないのだと感じました。リーディングクラブでは、全5回のうち後半は聴くだけ参加が多かったのですが、続編の際には思い切って対話に参加してみたいと思いました。 ▶今回のドイツ語リーディングクラブで、いるところも立場も違う人たちが同じ話題についてそれぞれの視点から意見交換できるのが、ここの良いところだと改めて感じました。現在の情勢ではどうしても話題がイスラエルにつながってしまうけれど、どう考えればいいのか本当に難しいとよく分かりました。

3-2-9

ドイツ語リーディングクラブ第1回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」続編(全5回シリーズ)

開催日時	2024/7/10(水)20:00～21:00
内容	ドイツ語で歴史の一次資料に触れる企画・ドイツ語リーディングクラブ続編全5回の第1回。昨秋からオーストリアより来日中のトリスタン・ダハさんの家族史をテーマに取り上げ、トリスタンさんの高祖父が強制収容所から息子に送った51通の手紙の中から、各回1通を選んで読む。 ベルリンから中村美耶さんとも繋ぎ、ファシリテーターを務めていただいた。
会場	オンライン
対象/参加人数	学生～一般／合計18名
参加者アンケートより	▶便箋を収容所側が準備していたこと、収容所にいた人へ家族が宛てた手紙はジグムントさんに限らず残っていないことが新たな発見でした。ふとした気づきの発言から、新たな気づきへ、言語・国境・年齢を超えてつながっていくのがゾクゾクして、私よりも知識がありそうな大人の中で発言するのは勇気がいるけれど楽しいです。ふとした気づきの発言から、新たな気づきへ、言語・国境・年齢を超えてつながっていくのがゾクゾクして、私よりも知識がありそうな大人の中で発言するのは勇気がいるけれど楽しいです。 ▶収容所内での「お金」について考えたことがなかったので、新鮮な視点でした。(一部抜粋)

3-2-10 ドイツ語リーディングクラブ第2回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」続編(全5回シリーズ)

開催日時	2024/7/23(火)20:00～21:00
内容	3-2-11の第2回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計14名
参加者アンケートより	▶手紙の文章をそのまま受け止める素直さが大事であると同時に、手紙の背景や言外の意味を想像する捻った考え方も大切だと思いました。また、個人の語りに迫ることの難しさを考えました。トリスタンさんの高祖父がホロコーストについて語らなかった、ということを知って次のように考えました。(中略)例えば「戦争を体験した世代である」ということは話してもらえても、核心に迫るようなトラウマの体験、衝撃的な出来事、忘れない記憶、など個人が抱える歴史に他者が踏み込むことはとても難しく、繊細なプロセスだと思います。ジグムントさんの視点から見える当時の社会が、私たちにドイツ語から英語、日本語に変換されて共有されることは、今回の手紙にあった「unforgotten father Sigi」を継承していることだと思うと同時に、彼のトラウマを現代に呼び起こすことであるという責任も感じました。 (一部抜粋)

3-2-11 ドイツ語リーディングクラブ第3回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」続編(全5回シリーズ)

開催日時	2024/8/20(火)20:00～21:00
内容	3-2-11の第3回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計14名
参加者アンケートより	▶手紙をそのまま読むべきか、書き手の意図まで読むべきかと議論できたことが良かったです。深読みすることばかりがリーディングではないと思いつつ、深読みしようとすることで想像できる書き手の心情や意図が感じられました。 ▶そもそも、ジグムントさんが外の家族と手紙でやり取りできていたこと自体、かなり珍しい事例であることが分かり、とても興味深かったです。また、現在歴史としてまとめられていることが全てではないと改めて実感しました。

3-2-12 問いづくりワークショップ【インターン7期生企画】

わたしはなぜ歴史を学ぶのだろう？ー対話すること、想像すること、考えることートリスタンと一緒に話そう

開催日時	2024/8/21(水)18:00～20:00
内容	Kokoroインターン7期生による企画イベントとして実施。インターン生たちが、自分たちがこれまで受けてきた歴史教育をふり振り返りながら生まれた、「わたしはなぜ歴史を学ぶのだろう？」という問いを参加者と一緒に考えることを目指した。歴史の教科書に書かれている内容をもとに問いづくりワークショップを行い、その後哲学対話を行った。トリスタンさんには、オーストリアで受けた歴史の授業や、奉仕活動の一環として参加した日本の学校の授業で感じたことを話してもらった。
会場	ゲーテ・インスティテュート東京
対象／参加人数	学生～一般／合計23名
参加者アンケートより	▶皆歴史をしっかりと勉強すれば戦争を防げると思えないが、安易に戦争や迫害を防ぐために歴史を学ぶべきだとか言わず、偏った意識を減らせるため、自分の生き方を確認するため、加担しないためといった、もっと具体的で自分に近いレベルに歴史を学ぶ意義を見出してもいいかと思いました。 ▶対面イベントに参加して、改めて歴史を学ぶ重要性を実感しました。学習者が問いを持つことの重要性と過程、教師の問いの重さを少し知ることが、できました。 (一部抜粋)

3-2-13 ドイツ語リーディングクラブ第4回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」続編(全5回シリーズ)

開催日時	2024/8/27(火)14:00～15:00
内容	3-2-11の第4回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計11名
参加者アンケートより	▶戦争が奇しくも女性の労働への参加を後押ししたというお話が興味深かったです。日本でも同様の歴史があるので、とても面白いと思いました。(一部抜粋)

3-2-14 ドイツ語リーディングクラブ第5回

「強制収容所から届いた手紙を読むー私の高祖父の物語」続編(全5回シリーズ)

開催日時	2024/8/30(金)14:00～15:00
内容	3-2-11の第5回
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計9名
参加者アンケートより	▶「福祉」という言葉について、私は大学で社会福祉を学んでいるのですが、ナチスは「福祉」を現代とは違う意味で使っていたと知り、奥が深いと感じました。現代でも「福祉」という言葉の意味は変わりつつあるようで、同じ言葉でも意味するものの違いを意識するべきなのだと改めて思いました。 ▶日本語で「歴史を語り継ぐ」ということが、オーストリアでは「歴史を学ぶ」という認識&行為で実践されているというお話が印象深かったです。ジグムントさんの手紙を読むことは、想像しかできない、または想像もできない部分が多かったですが、過酷な状況下でも失われなかった家族への愛情と信頼が伝わってきました。トリストラン君のご家族にとっては、つらい記憶をたどる時間でもあったかと思いますが、お話してくださったことに感謝申し上げます。中村美耶さん、いつも分かりやすい解説をありがとうございました。

3-2-15 ブックトーク&問いづくりワークショップ

「歴史の扉を開いて世界と出会う わたしの問いを見つける」第1回

開催日時	2024/11/30(土)17:00～19:00
内容	1冊の本を入口に歴史に出会い対話をする、問いづくりワークショップを開催した。(全3回)
会場	聖心グローバルプラザBE＊hive
対象／参加人数	学生～一般／合計18名
参加者アンケートより	▶特に印象に残ったのは「哲学対話」です。初めての体験で、どんなものかイメージが湧いていませんでしたが、実際にやってみると他の参加者の考えに触れる中で、自分の中に新たな視点が生まれました。対話の面白さを実感し、「対話って好きだな」「歴史って好きだな」と改めて強く思いました。この体験を通じて、友達とも哲学対話をしてみたいという気持ちが湧いています。 また、大学生の方々がとても優しく接してくださり、居心地が良かったです。大人の方もいらしゃったことで、多世代が関わる良い雰囲気が生まれていました。普段は学校という限られたコミュニティにいるため、こうして幅広い世代の方々と交流できたことは大きな刺激になりました。石岡さんと最後に少しお話しできたのも嬉しかったです。(一部抜粋) ▶全体的に自分の意見の何を言っても大丈夫な空気がすごく良かったです。哲学対話の時など話しやすい雰囲気があったと思います。

3-2-16 ブックトーク&問いづくりワークショップ

「歴史の扉を開いて世界と出会う わたしの問いを見つける」第2回

開催日時	2025/1/25(土)17:00～19:00
内容	3-2-17の第2回

会場	聖心グローバルプラザBE＊hive
対象／参加人数	学生～一般／合計9名
参加者アンケートより	▶少人数であることや、インターン生の方たちの進行でとても話しやすい場でした。慰安婦について知らないことが多く、問いが作れるのかも心配でしたが、最後の哲学対話で作った自分の問いを思い出すと、それを自分は疑問に思っていたんだなあと自分であるほど！となりました。花ばあばの絵本の土台となったシムさんの証言をぜひ読んでみたいです。同世代が多かったことで居心地が良かったと思うのですが、性に関して中々話題にできない、ということについては高校生や男性の参加者がもっといたら聞いてみたかったな、と思います。 ▶世代やgenderの異なる人の問いの豊かさから気付きを得て問いが広がるので短い時間でしたがとても豊かな時間を持つことができました。(一部抜粋)



3-2-17 教育関係者ワークショップ

「問いと対話で開く人権教育－ナチズムの歴史を教材に」国連制定ホロコースト国際デー2025 in 東京

開催日時	2025/1/26(日)15:00～17:30
内容	教育関係者を対象に、ナチズムの歴史を探究するワークショップを開催した。
会場	ゲーテ・インスティトゥート東京
対象／参加人数	学生～一般／合計20名
参加者アンケートより	▶とても実りのある時間だったと感じる反面、関心のある人たちが集ったことによる実りであったとも言えると感じました。教育現場で目の前にしている生徒たちの様子が、戦争時期の社会の構図にすら見えてくる様に思われます。とても難しくもどかしい気持ちですが、こういった対話をどうしたら関心の外にいる人たちに広められるかということを、教育に携わる者としての「抵抗」として示していきたい次第です。 ▶対話を通してすごく多面的なものになっていった気がした。名前のある人物のライフストーリーと年表を重ねることで、転機が積み重なって追い込まれていったことが理解できた。 ▶同じ教員でも全く異なる立場・環境にある方達と今回のワークショップで対話に臨めたことは貴重な体験でした。名もなき人たちのライフストーリーを社会的状況につなげながら辿る手法は解を一つに絞ることなく、想像力を駆り立てると感じました。



3-2-18 児童文学作家オンライントーク

「声なき小さな存在を物語にする」国連制定ホロコースト国際デー2025 in 東京

開催日時	2025/1/27(月)19:00～20:30
内容	『レオの物語』の作者・オランダの児童文学作家のマルティネ・レテリーさんを招き講演会を開催した。聞き手には、オランダの児童文学作品を日本に紹介している野坂悦子さんをお迎えした。オランダ生まれのレオ・メイエルは、9歳でアウシュヴィッツに送られ命を閉じた。レオが残した絵と手紙は、短く絶たれたその生涯がこの世界に確かに存在したことを伝えている。ひとりの少年の人生を物語にした過程や、オランダ国内に作られたヴェステルボルク収容所についてお話をお聞きした。
会場	オンライン
対象／参加人数	学生～一般／合計89名
参加者アンケートより	▶オランダが8歳からこのことについて学習していると聞いて、マルティネさんがおっしゃったように、子どもの視点から見て、考えることはとても重要に感じます。ステップ バイ ステップで感じ方も、学習内容も成長していければよいと思いました。野坂さんのお人柄にじみ出ていた通訳にもとても感服しました。私は長崎県長崎市で原爆について学習を学校で教えています。私自身も広い視野や多種多様な考えを持つこと、怖い部分だけではなく、そこに生活があり、その人の人生があったことなどを、しっかり学びなしたいと感じました。本当にありがとうございました。(一部抜粋) ▶レオが見ていた海、通っていた学校などレオの視点から見える世界を写真と共に紹介してくれたのがとても良かったです。(中略)最近忙しさに負けて、ホロコーストのこともそうですが、一人一人の物語に注目することに疲れてしまっていたので、いい時間を過ごせました。(一部抜粋) ▶empathyという言葉が聞かれるようになって久しいですが、他人への共感力は心の発達に合わせて養うことが可能であると教えられ、目が開かれた思いです。

3-2-19 ブックトーク&問いづくりワークショップ

「歴史の扉を開いて世界と出会う わたしの問いを見つける」第3回

開催日時	2025/2/15(土)17:00～19:00
内容	3-2-17の第3回
会場	聖心グローバルプラザBE＊hive
対象／参加人数	学生～一般／合計11名
参加者アンケートより	▶"若い方達の行動力と感性の豊かさにとっても刺激されました。'耳を傾ける'というのがキーワードでしたが、ひとりで耳を傾けていてもなにも聞こえてこないという事に'気づき'ました。(中略)問いはいろいろな形に成長し、枝分かれしていくもの'ということばをいつかの新聞のコラムで見ましたが、このワークショップをきっかけに生まれた問いが自分の中でゆっくりと広がっていくのが、いいなと思いました。なぜかとても幸せな気持ちになりました。(一部抜粋) ▶対話に興味のある方々が集まる場で、意見を交換し合えるということ自体普段は持てない貴重な機会、私自身とても好きなことなので楽しかったですが、テーマも私の興味のあることで、将来も学びたいと思うようなことだったので、そのことについて様々な生い立ちや年齢や職業の方々の意見を聞くことが出来て、参加して良かったなと思いました。家のように居心地が良く安心できる場所でとても幸せでした！家族以外には自分の意見を極力話さないようにしていましたが、自分の意見を口にしたり、考えているありのままの言葉を皆が交わし合えて、耳を傾けていただけたことがとても新鮮で優しい空間で、このような場に出会えてとても嬉しかったです。また参加したいです

3-3. スタディツアーおよび海外でのプログラム

3-3-1 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー

開催日時	2024年8月
訪問都市	(ポーランド)ワルシャワ、クラクフ、オシフィエンチム
対象／参加人数	大学生協加盟の大学生18名
参加者アンケートより	日本全国から出身も学年、学部も多様な大学生たちが、ポーランドを訪ねる8日間のツアーに参加し、Kokoro代表・石岡史子が引率した。アウシュヴィッツでは、中谷剛さんのガイドツアーと同博物館教育部によるワークショップで構成されるプログラムに参加した。最終日はクラクフで、日本語を学ぶポーランドの学生たちと街を歩きながら交流した。

3-3-2 同志社大学 ヨーロッパピーススタディツアー

開催日時	2024年9月1日～7日
訪問都市	(ドイツ)ベルリン
対象／参加人数	同志社大学社会学部の学生9名
内容	同志社大学の「異文化体験実習」として、4月より事前学習を重ねて、8月に渡独。ベルリンの史跡や博物館を訪ねる一週間のプログラムををKokoroで企画した。同志社大学の担当教授と共に、Kokoro代表・石岡史子が引率した。帰国後には、参加者の学びの成果をまとめたものを教室で「ミュージアム」として展示し、公開した。

3-2-16 Bridge Stories across Borders 若者歴史対話 in ベルリン

開催日時	2024年9月9日～13日 ※別途、8/5(土)事前ワークショップ・10/5(土)事後ミーティングを実施
対象／参加人数	日本・ドイツに在住する、多様なルーツを持つ若者21名が参加
訪問都市	街歩きやフィールドワークや、ミュージアム見学アート、ワークショップなど五感を通して記憶に出会い記憶の形に触れ、対話を通して歴史の在り方を探る試み。 「歴史とは何か」という問いを探求するために、ナチズムとアジアへの日本の侵略の歴史の中から、これまで「声にならなかった」「語られてこなかった」小さな物語に光を当てるプログラムを実施した。
会場	ドイツ・ベルリン市内、ザクセンハウゼン強制収容所など
参加者アンケートより	▶私は普段自分のバックグラウンドについて、新しく会った人に話すことはあまりありません。自分が相手がどう思われるか時に怖く感じ、またこれを言ったことで相手は自分に対して偏見を抱いてしまうのではないかと恐れているからです。しかし、今回のプログラムではほとんどの参加者に初めて会ったにも関わらず、自分の経験やバックグラウンドを話すことができました。おそらく、参加者全員に、他の人の意見をあたたかく受け入れる姿勢があったからだと思います。自分が言ったことに対して好奇心をもって、むしろ興味を持ってくれる環境がとてもありがたく感じました。 ▶プログラムが始まってすぐ、ドイツ側の参加者が他者の意見に対して、耳を傾け、自分の意見を言うように促してくれることは、ドイツの教育による賜物であるとだけ考えていました。しかし、プログラムの中で参加者同士で会話するうちに、ドイツ側の参加者の中にも、自分の意見を言うことに緊張はあり、その緊張の原因となった経験が、彼ら彼女らを親切で寛容にしているのだらうということに気づきました。意見の対立や不寛容な人間に出会うことを過度に恐れず、他者の意見に興味を持って、積極的に対話をする彼ら彼女らの姿勢には、本当に勇気をもらいました。隣の芝生ばかりを眺めず、自分の庭をもう少し耕してみるのも良いかもしれない、と思えました。また同時に、意見を述べることに抑圧的な日本においても、自分の意見を持ち、他者と共有したいと考えて行動する沢山のメンバーに逢い、自分にできることはまだまだありそうだという希望をもらいました。



(左)コンテンポラリーダンスによる「沈黙の歴史」のパフォーマンスを鑑賞して対話
(右)最終日のワークショップでは、参加者一人ひとりがアートで歴史の語りを再構築

3-3-4 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー

開催日時	2025年2月26日～3月5日
訪問都市	(ポーランド)ワルシャワ、クラクフ、オシフィエンチム
対象／参加人数	大学生協加盟の大学生9名
プログラム	北海道、京都、千葉、愛知、東京など日本全国から集まった大学生たちが、ポーランドを訪ねる8日間のツアーに参加し、Kokoro代表・石岡史子が引率した。学年は1～3年、専攻も法学、工学、看護など多様で、初対面同士、交流しながら、ポーランドの史跡を訪ね、学んだ。アウシュヴィッツでは、中谷剛さんのガイドツアーと同博物館教育部によるワークショップで構成されるプログラムに参加した。最終日はクラクフで、日本語を学ぶポーランドの学生たちと街を歩きながら交流した。



(左)中谷剛さんのガイドでアウシュヴィッツ見学
(右)アウシュヴィッツ見学後に博物館教育部によるワークショップに参加

3-4. NPOの自主事業—大学生インターン受け入れ

3-4-1 インターン7期生

受入期間	2024年4月20日～2024年8月22日
採用過程	3月23日 オンライン説明会 4月6日 応募締め切り 4月20日 活動開始 8月22日 インターン修了式—活動完了
受入人数	大学3年2人、大学4年1人、合計3人
活動内容	▶オンラインミーティング 4月20日、28日 5月15日、20日 6月5日、14日、19日 7月4日、12日、22日、25日、30日、 8月1日、8日、16日、19日、22日 ▶イベント参加、運営アシスタント 4月20日 6期生企画 4月24日 ドイツ語リーディングクラブ 5月8日 ドイツ語リーディングクラブ 5月22日 ドイツ語リーディングクラブ 5月25日 ワークショップ「ヒトラーの生家をめぐる対話」&総会 6月5日 ドイツ語リーディングクラブ 6月26日 ドイツ語リーディングクラブ 7月10日 ドイツ語リーディングクラブ 7月23日 ドイツ語リーディングクラブ ▶学校訪問授業同行 5月13日 品川女子学院 6月24日 品川女子学院 7月29日 湘南学園 ▶フィールドワーク 7月18日 世田谷平和資料館見学
インターン生のふりかえり	▶学校でもバイトでもないもう一つの居場所として、安心して発言できる場があったことが嬉しかった。 ▶インターンに参加する以前は、Kokoroのイベントに一般参加者として関わっていたが、インターンとして運営に携わる中で、ワークショップの企画や対話の場づくりがどのように設計・準備されているのか、その背景やプロセスを知ることができた。 ▶ミーティングは、安心して何でも話せる場だった。普段は自分の考えを言葉にして伝えることが得意ではないが、そのような場でミーティングを重ねていく中で、自分自身のことをたくさん話すようになった。話すことで問いが広がり、自分自身を深く知るきっかけにもなった。 ▶インターンという立場であっても、意見を聞き入れてもらい反映される場面もあった。そのため、運営の一員として主体的に関与しているという実感を得ることができた。
スタッフ所感	インターン生企画として問いづくりワークショップを考えていくにあたり、インターン生たち自身が受けてきた「歴史教育」を振り返りながら問いを立て、イベントの中で他の参加者とともに考えようとする姿が印象的だった。また、インターン生3人が英語を話せたことでトリスタン・ダハさんとのコミュニケーションも円滑に進み、イベント内でトリスタンさんが受けたオーストリアの歴史教育にも触れることができた点が非常に良かったと感じている。



3-4-2 インターン8期生

受入期間	2024年11月20日～2025年3月27日
採用過程	10月26日 オンライン説明会(全2回) 11月4日 応募締切 11月20日 活動開始 3月27日 インターン修了式ー活動完了
受入人数	大学2年1人、大学3年1人、大学院2年1人、合計3人
活動内容	▶オンラインミーティング 11月20日、25日 12月2日、9日18日 1月8日、15日、22日、24日、29日 2月5日、22日、25日 3月2日、15日、19日 ▶イベント参加、運営アシスタント 11月30日 ブックトーク&問いづくりワーク ショップvol.1 1月25日 ブックトーク&問いづくりワークショップvol.2 1月26日 ワークショップ「問いと対話で開く人権教育」 1月27日 オンライントーク「声なき小さな存在を物語にする」 2月15日 ブックトーク&問いづくりワークショップvol.3 ▶学校訪問授業同行 11月22日 東京純心高校 ▶podcast収録 3月8日、27日
インターン生の ふりかえり	▶これまでホロコーストや日本軍「慰安婦」、沖縄の歴史などの問題に関心を持ち、学んだりまわりの人と話したりはしてきたが、自分で学んで終わっていたんだなとインターンを通して感じた。（春から歴史教員になるにあたって）今度私がしないといけないことは、学んだことをわかりやすい言葉で伝えたり問題提起をして、こうした問題についてみんなで考える場をつくれるようなような問いを立てることだと思った。 ▶インターン活動を通じて、教科書に載っている歴史だけでなく、そこに含まれない視点や語られてきた個々の歴史にも目を向けるようになった。 ▶特に、高校生や一般の方と行った哲学対話が印象的だった。哲学対話はディスカッションと違い、話す・話さないの選択ができ、聞いているだけでも自分の考えに変化があったりなかったりと、さまざまな感情が動く点におもしろさがあると感じる。この楽しさや難しさを、どうすればより多くの人に届けられるのかを考えるきっかけにもなった。
スタッフ所感	・ワークショップの対話においては、インターン生3名がひとりの参加者として主体的に意見を共有していた点が印象的であった。考えが十分にまとまっていない場面でも、「わたしも考えている途中である」という姿勢を示すことで、参加者が安心して発言できるような対話の場を醸成していた。 ・スタッフを含め全員がPodcastの収録は初めての経験であったが、落ち着いて収録することができた。収録後のふりかえりでは、「収録して終わりではなく、それを公共の場でいかに届けるか」という視点を共有し話し合いをした。自らの発言が広く公開されることにおいて、使用する言葉や表現への配慮が求められることを再認識し、それぞれが自分自身をふりかえるきっかけになった。



4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro通信」(ニュースレター)

Kokoro通信(A4、8ページ)は前年度に引き続き休刊した。

4-2. 「Kokoroメルマガ」の発行

Kokoroメルマガは、6回発行し、イベント情報などを合計4,842名にメールで提供した。

	号数	発行時期	タイトル	発行部数
1	125号	2024/4/30	トリストラン招聘説明会のご案内	807
2	126号	2024/5/22	若者歴史対話 in ベルリン	807
3	127号	2024/8/16	私はなぜ歴史を学ぶのだろう	807
4	128号	2024/11/5	わたしたちは対話することに希望を見いだせるだろうか	807
5	129号	2025/1/13	オランダと繋いで児童文学作家オンライントーク	807
6	130号	2025/2/22	アウシュヴィッツスタディーツアー説明会	810

4-3. その他のSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を利用した情報発信

ブログやフェイスブック、ツイッターなどのSNSによる定期的な情報発信を継続して行った。海外のニュースや、新刊図書の案内など歴史を身近に感じてもらえるような情報発信を心がけた。コロナ禍でイベント情報はSNSでの広報が最も効果的だった。

2020年度より始めたYouTubeの「Kokoroのチャンネル」での映像記録の公開および広報動画の投稿を継続して実施した。Instagramではメインのアカウントとは別に@KokoroYouthのアカウントでインターン生が中心となって投稿を担当した。

4-4. メディア寄稿、取材

アウシュヴィッツ解放80年の節目で、新聞で活動が取り上げられた。

1. 2025年1月27日 朝日小学生新聞
「アウシュビッツ 解放から80年 600万人の命うばう
日本にも差別的な考え」
2. 2025年2月2日 朝日中学生新聞
「アウシュビッツ解放から80年
ナチスの政策で600万人犠牲に 人を一面的にくくらないで」



4-5. ポッドキャスト「Kokoroラジオ」

大学生インターン8期生の企画をきっかけにして2025年3月よりインターネットの音声配信をはじめた。歴史を知識や情報として発信するのではなく、歴史や記憶そして現在の身近な社会や世界に思いをめぐらせる時間を届けたいという趣旨のもと、Kokoroの日常や、最近観た映画などをテーマに学生たちが言葉を交わした記録を配信した。 <https://www.npokokoro.com/podcast>



配信日	テーマ
3月19日	映画『関心領域』を観て、どんなことを考えた？
3月31日	インターンを終えて

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時		従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネル(オンライン含む)やビデオの制作・提供	随時	事務所	2名	不特定多数	58,769
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNSなどでのおすすめ図書の紹介	随時	事務所	1名	不特定多数	75,365
	ブックログ(登録1428冊)					
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	40回	小中高校、大学	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般 5,051人以上	12,927,829
	NPO自主企画	38回	オンライン		570人	
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	メールマガジン	6回	事務所	2名	4,842名	350,144
	ホームページ、ブログ	随時		2名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	2回		2名	不特定多数	
	SNSツールの活用 ・ Facebook ・ Twitter ・ Instagram ・ YouTube	週3回		10名	不特定多数	